

令和元年東日本台風では、全国各地で甚大な被害が発生したことを踏まえ、黒瀬川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取組みを実施していくことで、甚大な被害を生じさせた昭和60年7月洪水と同規模の洪水による浸水被害の解消を図る。



- 黒瀬川では、県、市が一体となって以下の手順の「流域治水」を推進する。

【短期】下蔵橋の架替によりボトルネック部を解消する。

大谷ダムにおける事前放流等の基本協定の締結、体制構築・実施を行うことにより、洪水被害を軽減する。

【中期】流下能力不足解消のため、黒瀬川の整備を実施する。

【中長期】更に流域全体の安全度を向上させるため、河道掘削などの維持管理を実施する。

- あわせて越水、溢水の頻発箇所へは、必要に応じて、水位計や監視カメラを設置し、WEB上への配信追加・周知などを行うことにより、避難判断に役立てる。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	黒瀬川の整備(河床掘削、堤防整備、橋梁架替等)	富山県	前沢橋等の架替によりボトルネック部を解消 下蔵橋の架替によりボトルネック部を解消		
	大谷ダムにおける事前放流の実施	富山県			
	森林整備・治山対策	富山県			
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画に基づく「安全なまちづくり」に向けた取組(防災指針策定など)	黒部市	立地適正化計画への防災指針の記載と取組など		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	災害リスクの現地表示、洪水ハザードマップの周知、浸水実績の周知	富山県 黒部市			
	水位計・監視カメラの活用	富山県	必要に応じて、越水、溢水の頻発箇所への設置やWEB上への配信追加・周知など		

【事業費(R6年度以降の残事業費)】

■河川対策
全体事業費 18.0億円※
黒瀬川の整備 等

※県の河川整備計画の残事業費を記載

気候変動を
踏まえた
さらなる対策を
推進